

月形町の公共交通の現況調査・課題等

平成30年度第1回 月形町地域公共交通活性化協議会

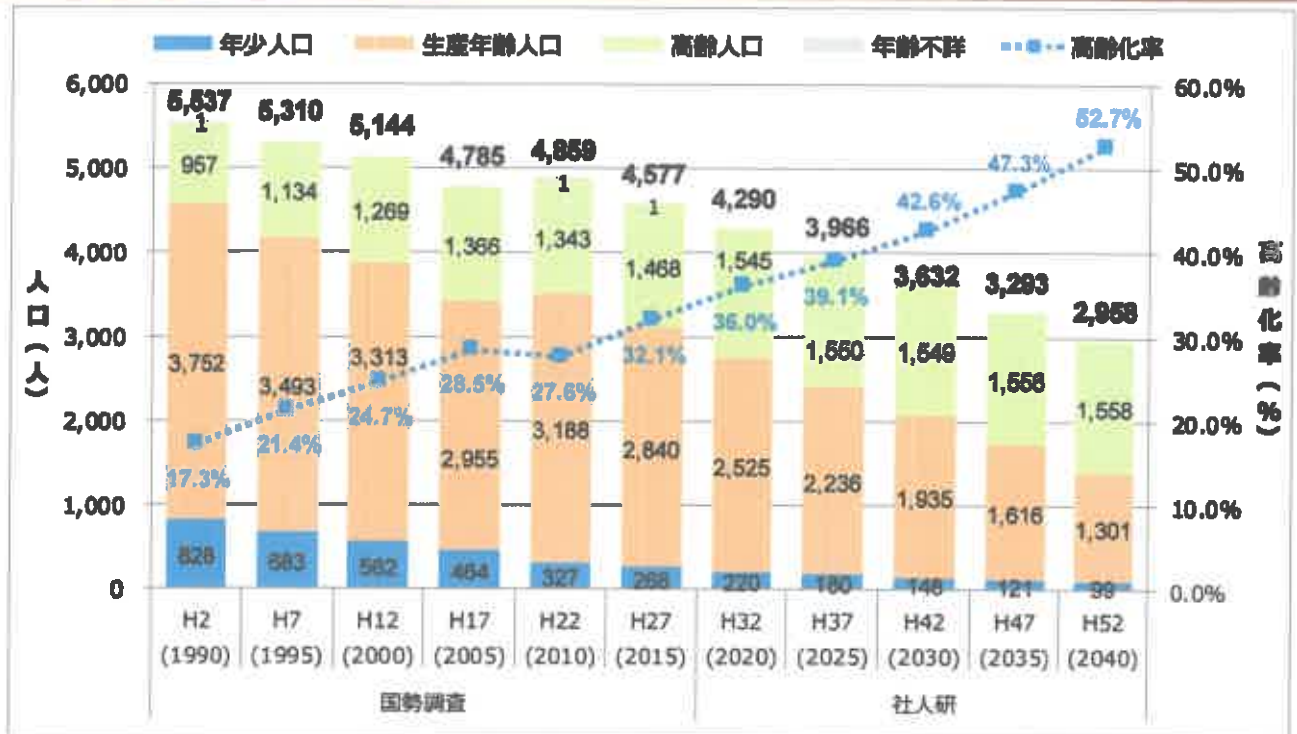
資料目次

No.1

1. 月形町における地域・公共交通の現状
2. 地域・公共交通の現状から見える課題
3. 今年度実施予定の調査等スケジュール
4. 各種調査の概要
 - (1) バス乗降調査
 - (2) JR乗降調査
 - (3) ハイヤー運行日誌分析
 - (4) 地域意見交換会
 - (5) 住民アンケート調査

(1)月形町における人口変動

- ◆月形町の人口は減少傾向
- ◆高齢化率は増加傾向であり、今後も進行する見込み



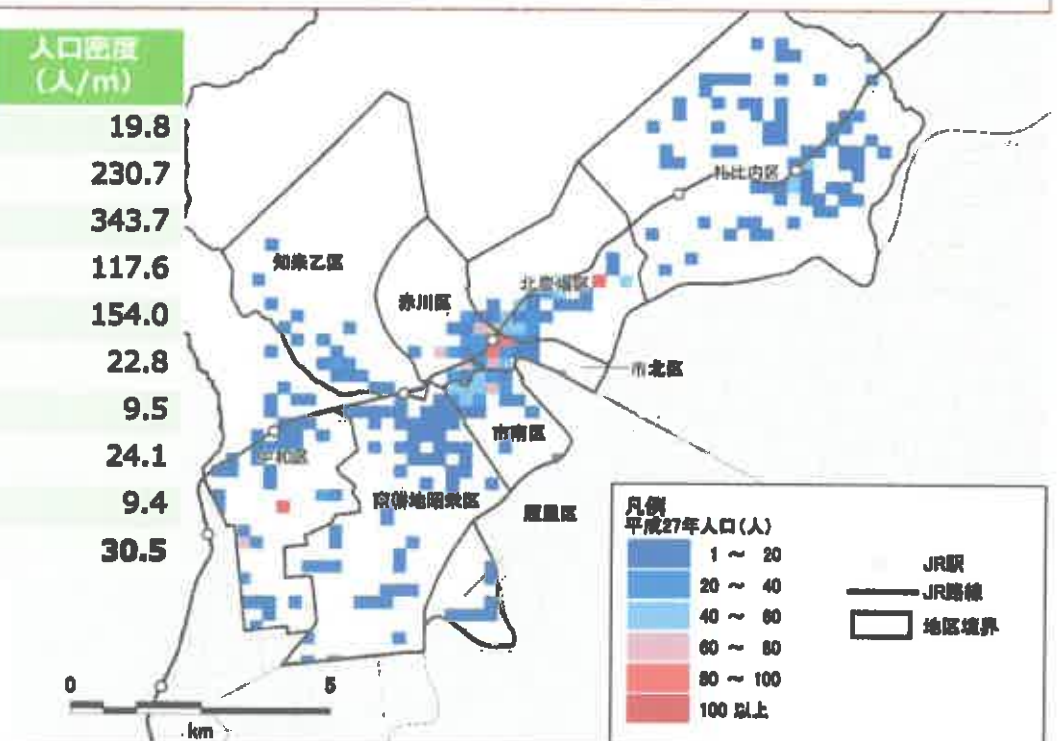
出典：国勢調査、社会人口問題研究所

1. 月形町における地域・公共交通の現状

(2)月形町における人口分布状況

- ◆月形町の人口分布は、月形刑務所が立地する北農場地区が最も多い
- ◆市街地を除く地区では、人口密度が低くなっており、散居形態の居住

地区名	人口 (人)	人口密度 (人/㎡)
札比内区	480	19.8
北農場区	1,811	230.7
市北区	450	343.7
赤川区	551	117.6
市南区	475	154.0
南耕地昭栄区	300	22.8
知己乙区	128	9.5
中和区	361	24.1
雁里区	21	9.4
全体	4,577	30.5

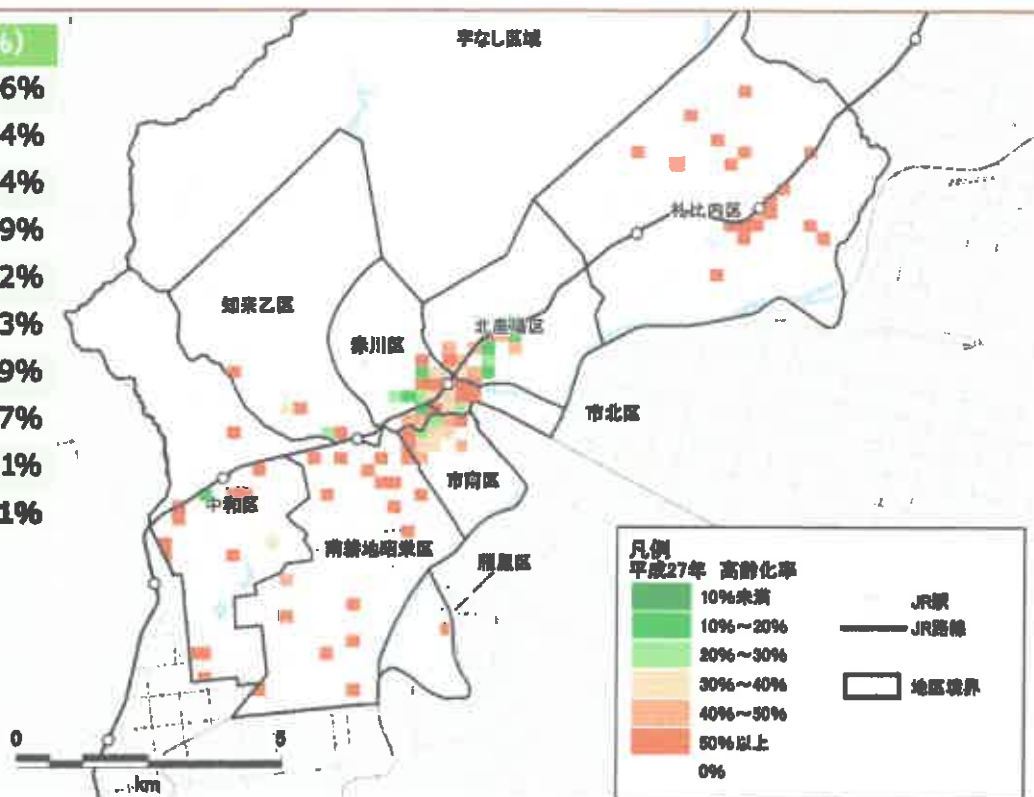


出典：平成27年国勢調査 (250mメッシュ)

(3)月形町における高齢者の分布状況

月形町の高齢化率は、中和地区で最も高くなっている。

地区名	高齢化率 (%)
札比内区	45.6%
北農場区	17.4%
市北区	44.4%
赤川区	31.9%
市南区	39.2%
南耕地昭栄区	41.3%
知己乙区	35.9%
中和区	53.7%
雁巣区	38.1%
全体	32.1%



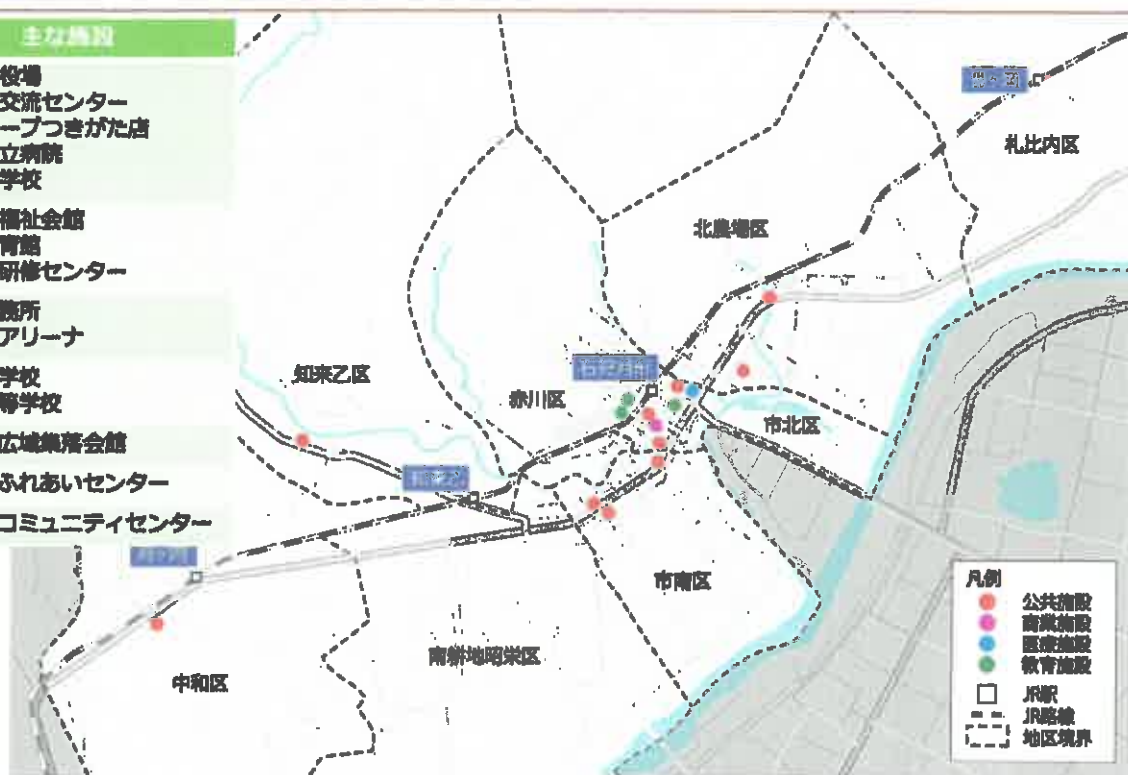
出典：平成27年国勢調査（250mメッシュ）

1. 月形町における地域・公共交通の現状

(4)月形町内における都市機能施設の立地状況

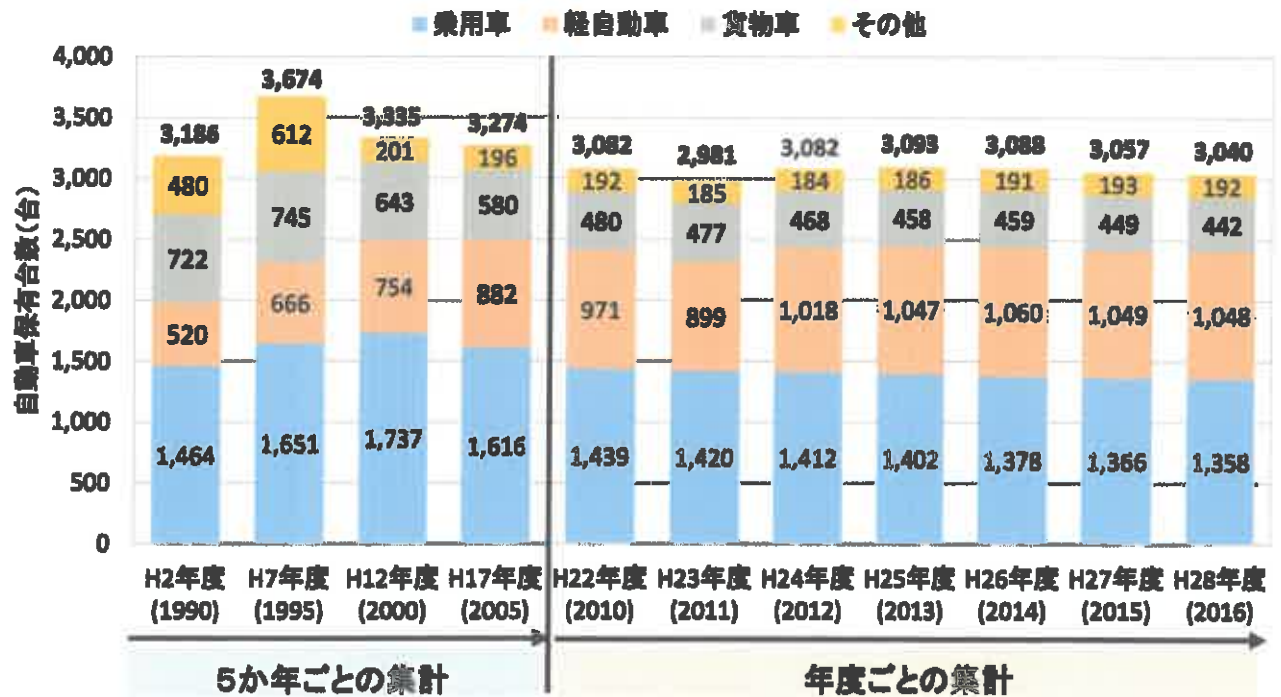
◆商業及び医療施設は市北地区に位置しており、町民は市街地もしくは、大型商業施設や総合病院を有する周辺自治体へ移動していると想定

地区名	主な施設
市北区	<ul style="list-style-type: none"> 月形町役場 月形町交流センター エコープつきがた店 月形町立病院 月形小学校
市南区	<ul style="list-style-type: none"> 月形町福祉会館 総合体育館 多目的研修センター
北農場区	<ul style="list-style-type: none"> 月形刑務所 多目的アリーナ
赤川区	<ul style="list-style-type: none"> 月形中学校 月形高等学校
知来乙区	<ul style="list-style-type: none"> 南地区広域集落会館
中和区	<ul style="list-style-type: none"> 月ヶ岡ふれあいセンター
札比内区	<ul style="list-style-type: none"> 札比内コミュニティセンター



(5)月形町の自動車保有台数

◆月形町の自動車保有台数は、平成28年度では 0.87台/人（H29年3月人口：3,457人（住民基本台帳））とほぼ1人に1台の割合で自動車を保有



出典：北海道自動車統計

1. 月形町における地域・公共交通の現状

(6)月形町内を運行する公共交通

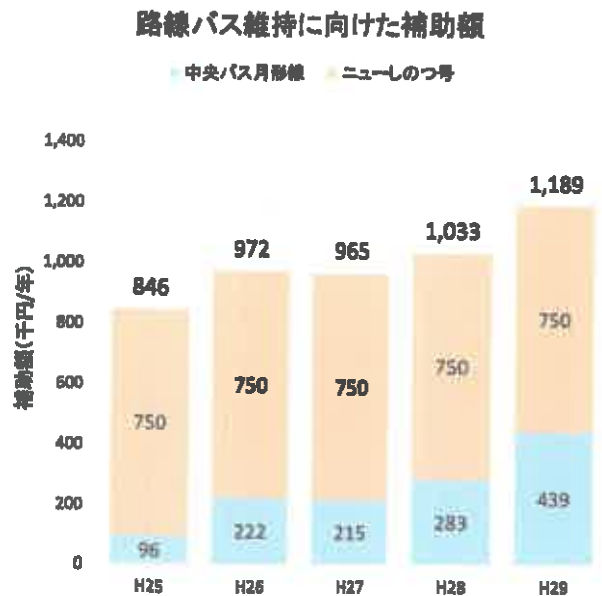
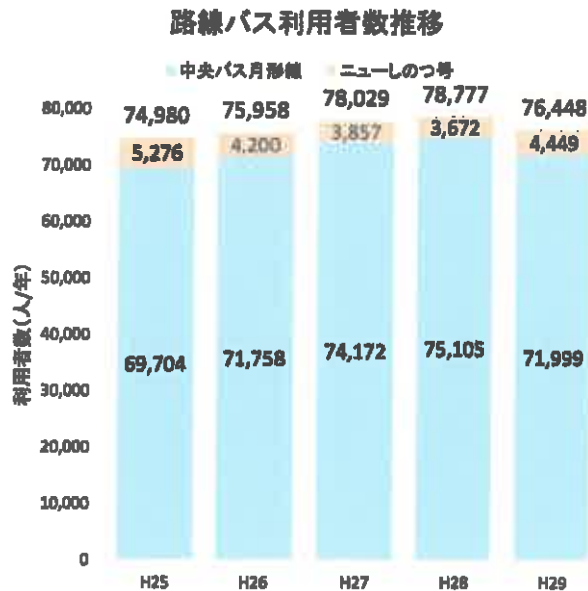
交通事業者	路線名	便数
北海道旅客鉄道(株)	JR札沼線	15便
北海道中央バス	月形線	17便
新篠津村営バス	ニューしのつ号	4便
月形町	北地区スクールバス	4便
	南地区スクールバスA	4便
	南地区スクールバスB	4便
合計	6路線	48便

※JR札沼線の運行便数はJR石狩月形駅発着の運行便数



(7)月形町内を運行する路線バスの利用者数及び補助額

- ◆民間事業者が運行させる路線バスの利用者数は、7万人強で横ばいで推移
- ◆路線バスの維持に向け、月形町が支出している補助額は、年々増加しており、平成29年で約120万円



(8)月形線の利用状況

■みらい大橋の開通 (H28.9)



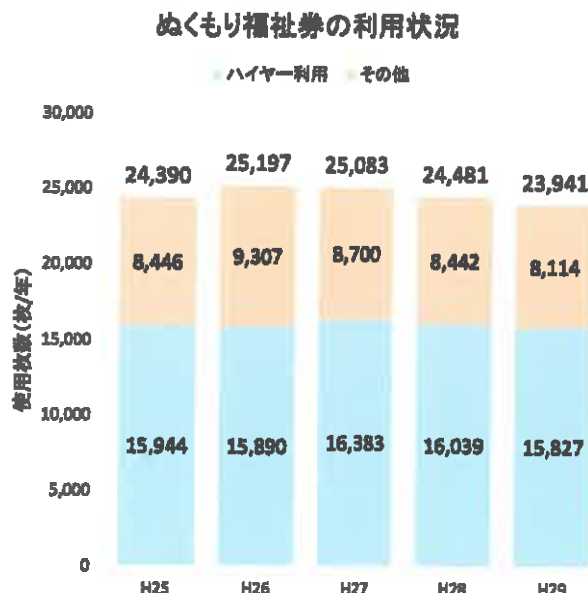
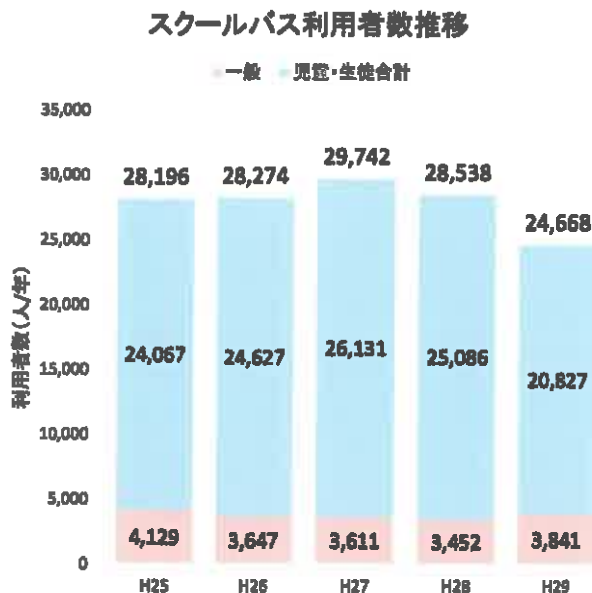
・市街地を多く運行できるルートに変更
⇒町民のバス利用機会増加に寄与

- 月形線の利用状況**
- ・月形市街地内は限られた運行
 - ・利用者が0人の区間が連続 (2018/4/27に6~7時台の運行便を調査)

地区境界

(9) スクールバス及びぬくもり福祉券の利用状況

- ◆ スクールバスの利用者数は減少傾向であるが、一般の利用者数は4,000人未満で推移
- ◆ ぬくもり福祉券の利用状況は、大半がハイヤー利用時に使用



(10) 福祉有償運送の利用及び登録状況

- ◆ 福祉有償運送の利用者数は、町内で4事業者が立地していた平成25年度が最も多く約1,800人の利用
- ◆ 現在は2事業者があり、年間約1,000人の利用者を輸送

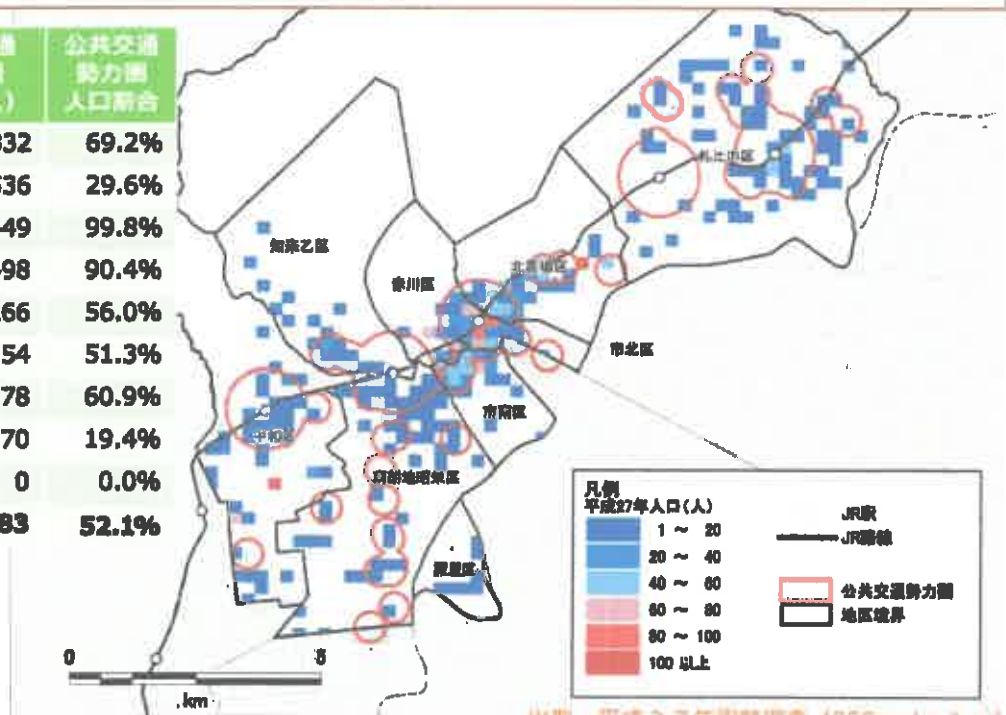


(11)月形町内における公共交通カバー範囲（人口）

- ◆月形町の公共交通網は、町民の約5割が利用できる環境にある
- ◆一方、地区別で見ると、公共交通を利用できる環境下にある町民が2割程度にとどまっている地区も存在する

地区名	人口 (人)	公共交通 勢力圏 人口(人)	公共交通 勢力圏 人口割合
礼比内区	480	332	69.2%
北農場区	1,811	536	29.6%
市北区	450	449	99.8%
赤川区	551	498	90.4%
市南区	475	266	56.0%
南耕地昭栄区	300	154	51.3%
知来乙区	128	78	60.9%
中和区	361	70	19.4%
雁屋区	21	0	0.0%
合計	4,577	2,383	52.1%

《公共交通勢力圏の設定について》
 バス：300m
 JR：1,000m



出典：平成27年国勢調査（250mメッシュ）

2. 地域・公共交通の現状から見える課題

現状・問題点	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢化の進行 ◆生産年齢人口の減少 	<p>高齢者などの自動車運転免許返納者への対応を検討</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆郊外部における散居形態の居住 ◆郊外部の高齢化 ◆郊外部における公共交通空白地域の存在 ◆商業・医療施設等の都市機能の市街地への集約化 	<p>郊外部における利用実態に即した新たな生活交通の検討</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆月形線の月形市街地以降の利用率の低さ ◆月形町と岩見沢市と繋ぐ新たな橋の設置（みらい大橋） 	<p>町民の路線バス利用機会の増加に資する交通施策の検討</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆JR札沼線の存廃問題 	<p>JR札沼線の廃止も考慮した沿線地域の生活交通及びまちづくりのあり方を検討</p>

課題の深堀や町民ニーズの把握などに向け、
 各種調査を実施

◆調査等スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
バス乗降調査	準備	実施	とりまとめ							
JR乗降調査	準備	実施	とりまとめ							
ハイヤー運行日誌の分析	情報入力		分析・とりまとめ							
町内公共交通に関する地域意見交換会			準備	実施	とりまとめ					
住民アンケート調査	準備	実施	とりまとめ							

3. 各種調査の概要

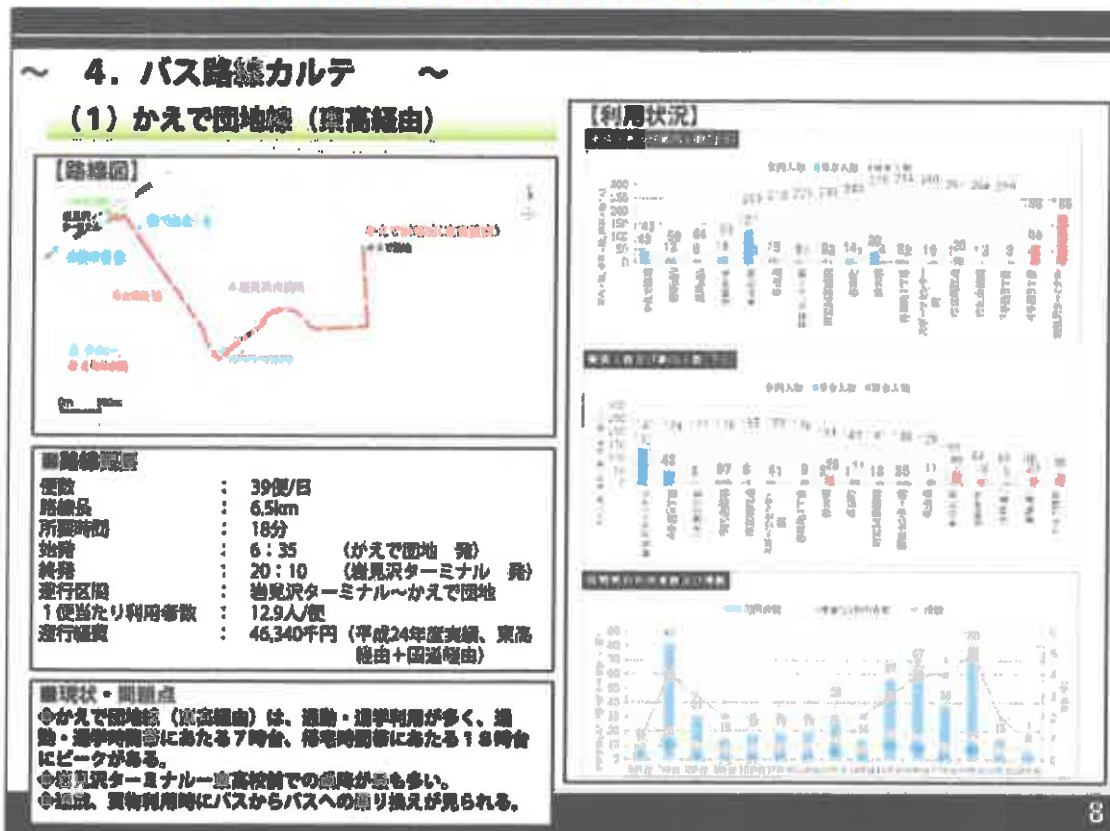
◆バス乗降調査の概要

調査対象	月形線及びスクールバス3路線の利用者
調査時期	平成30年7月中旬（平日・休日の2日間で実施） ※悪天候時は調査を延期する
調査方法	利用者数調査：バス停毎の利用者数を目視によりカウント 利用実態調査：調査員による聞き取り ※いずれの調査も調査員がバス車両に乗車し実施
調査項目	基本情報：路線名、運行便 利用状況：バス停別乗降人数、利用者別乗降場所、乗継の有無、利用目的等 利用者属性：性別、年齢、職業



- 1) 町民の利用実態を踏まえた予約運行型交通などの新たな公共交通の運行計画を検討
- 2) 月形線のみらい大橋経由へのルート変更を検討

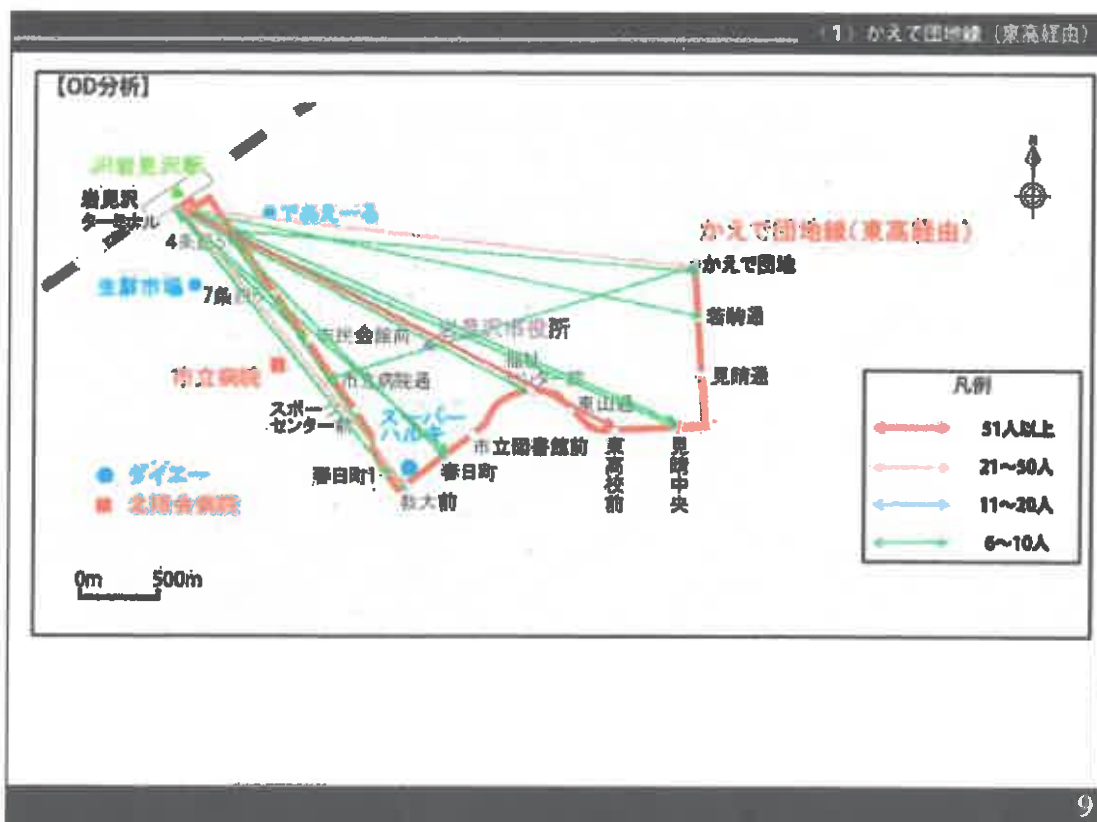
◆整理イメージ (バス停別・時間帯別利用者数)



資料：H26 岩見沢市生活交通ビジョン策定検討業務

3. 各種調査の概要

◆整理イメージ (発着分析)



資料：H26 岩見沢市生活交通ビジョン策定検討業務

◆整理イメージ（利用属性、利用目的等）



実績：H26 岩見沢市生活交通ビジョン策定検討調査

3. 各種調査の概要

◆JR乗降調査の概要

調査対象	JR札沼線（石狩当別～石狩月形間）の利用者を対象
調査時期	平成30年7月中旬（平日・休日の2日間実施） ※悪天候時は調査を延期する
調査方法	利用者数調査：JR駅毎の利用者数を目視によりカウント 利用実態調査：調査員による聞き取り ※いずれの調査も調査員がJR車両に乗車し実施
調査項目	基本情報：運行便 利用状況：JR駅別乗降人数、利用者別乗降場所、利用目的、 JR札沼線廃止時の交通変動等 利用者属性：性別、年齢、職業



1) JR北海道との個別協賛資料の基礎資料となる**JR札沼線の利用状況やJR札沼線廃止を想定した交通変動を把握**

◆ハイヤー運行日誌分析の概要

調査対象	ぬくもり福祉券を活用したハイヤー利用者を対象
調査方法	はーとハイヤー様から運行日誌を閲覧させていただき、ぬくもり福祉券を活用したハイヤー利用者の発着場所を把握
調査項目	基本情報：利用時間帯 利用状況：利用者別発着場所 利用者属性：性別、年齢

- 1) 予約運行型乗合タクシーなど新たな公共交通における運行計画の検討
- 2) 新たな公共交通におけるサービス水準（運行時間帯や運行便数など）の検討

◆地域意見交換会の開催概要

対象	町内3地区（市街地、南地区（南耕地昭栄区等）、北地区（札比内区等））に居住する町民
開催時期	平成30年9月中旬から10月中旬
開催方法	各地区で参加者を募集（広報や各会合等での周知）し、月形町の公共交通に関する議論を行う。
議論項目	<ul style="list-style-type: none"> ・月形町内を運行する公共交通に関する課題について ・町民が望む広域的な移動を含む公共交通のあり方について ※住民アンケート調査では把握しきれない詳細な意見・要望を把握

- 1) 月形町全域及び各地区が抱える公共交通の課題や課題解決方策を検討
- 2) JR札沼線（駅舎の活用を含めた）のあり方を検討



意見交換会の開催イメージ（網路町の事例）

◆住民アンケート調査の概要

調査対象	15歳以上の月形町民 1,000世帯
アンケート票 配布時期	平成30年7月上旬～中旬
調査方法	郵送配布、郵送回収 ※より多くの町民から意見を抽出するため、1世帯につき2票配布 ※回収率30%を想定（町内3地区（市街地、北地区、南地区）に分類し、各地区100票程度の回収を想定
設問項目	①回答者の属性（年齢、性別、居住地など） ②日頃の移動手段（通勤・通学、買い物、通院の3目的） ③月形町における生活交通のあり方（交通結節点のあり方、町内公共交通あり方、広域公共交通のあり方）

- 1) 町民の生活実態に即した**新たな公共交通におけるサービス水準の検討**
- 2) **高齢者等の免許返納者増加を見据えた施策の検討**
- 3) **JR札沼線の利用状況及びあり方の検討**

詳細はアンケート調査票でご説明いたします。